

実家庭

令和元年度

学校評価結果と改善策



【 「目指す児童像」 に対する評価基準 】 (数値目標)

児童

肯定率 (はい・概ねはい) が 80% 以上

保護者

肯定率 (はい・概ねはい) が 80% 以上

教職員

評価値 (はい4点・いいえ1点の合計÷人数) が 3.0 以上

【 協働型学校評価の達成状況評価基準 】 (数値目標)

☆できるようになったかを問う「成果評価」と、できるようにするための改善活動を実行したかを問う「行動評価」による総合判断

児童

「はい」占有率が 55% 以上

保護者

肯定率 (はい・概ねはい) が 80% 以上

教職員

評価値 (はい4点・いいえ1点の合計÷人数) が 3.0 以上

仙台市立広瀬小学校

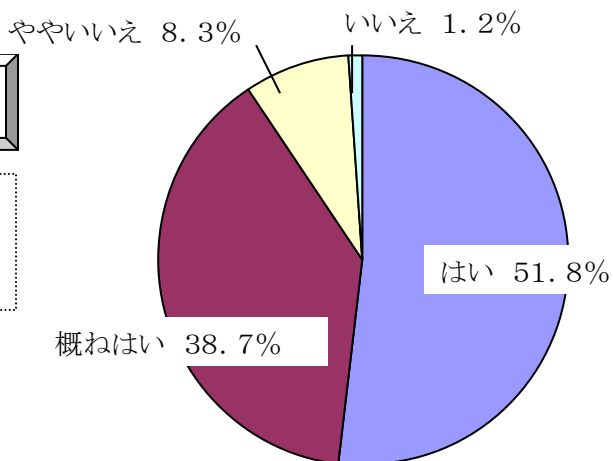
「思いやりのある子供」 (豊かな心)

児童アンケート

「わがまま(自分勝手)をしないで、
友達の気持ちを考えながら生活
することができましたか。」

肯定率 90.5%

達成

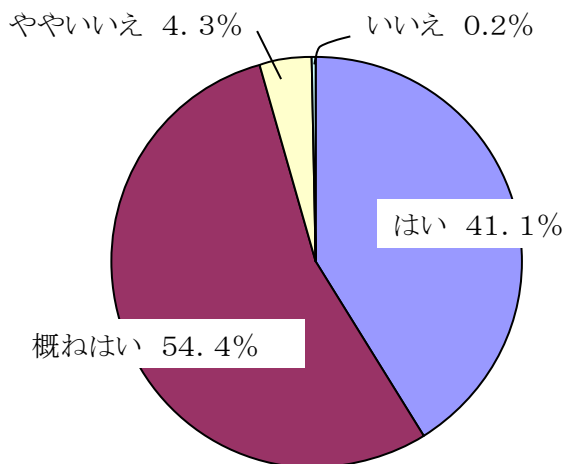


保護者アンケート

「お子さんは、思いやりの気持ち
をもって他者に接することがで
きるようになっていきますか。」

肯定率 95.5%

達成



教職員自己評価

「児童に豊かな心を育む体験活
動を提供できたか。」

評価値 3.7

達成

「思いやりのある子供」を育成するための学校の取組と、保護者による学校の行動評価

	項目	肯定率
1	豊かな体験活動の提供	96.9%
2	児童主体の活動の提供	96.8%
3	保護者との子育て意識の共有の取組	92.3%
4	人との関わりや挨拶の推進	89.8%

【評価結果の考察】

「思いやりの気持ちを持って、他者に接する」ことについて、保護者の皆様から、95.5%の肯定的な評価をいただきました。これは、昨年度を1.9%上回り、高い水準を維持していると捉えています。子供たちは、90.5%と昨年度より1.3%下回りはしましたが肯定的な自己評価を行っており、教職員の評価値も、「概ね満足できる状態にある」という結果が出ています。

「思いやりのある子供」を育成していくために、本校が掲げた重点努力事項の中で、保護者の皆様から特に高い肯定率をいただいた取組は、「豊かな体験活動の提供」と「児童主体の活動の提供」でした。また「保護者との子育て意識の共有」についても昨年度に引き続き高い評価をいただきました。これは、いじめ防止や教育相談等の取組を積極的に行ったり、情報発信を継続したりしてきた成果の表れだと捉えています。また、「人との関わりや挨拶の推進」についても、高い評価を得ています。本校の教育活動において重要視している、地域素材の活用や地域に住む方々との交流、そして、地域に根ざした数々の体験活動が、子供たちの心の成長にも大きく役立っていることがうかがえます。

【次年度に向けた取組】

次年度も、『思いやりのある子供』の育成に向けて、学習を中心に学校行事や児童会活動等の様々な活動の中で人との関わりを重視し、「他者の立場になって考える」「感謝の気持ちを相手に伝わるように表現する」姿勢を身に付けられるように指導を継続していきます。また、「温かい言葉（あったか言葉）に包まれた教育環境づくり」を目指した取組を推進していきます。

道徳教育については、今後も道徳を構成する4つの内容項目の中の「主として他の人とのかかわりに関すること（礼儀・親切・助け合う・感謝）」を本校の重点事項と関連付け、道徳の時間を核としながら全教育活動を通して指導していきます。また、子供たち一人一人が自己肯定感や自己有用感を感じることができるよう、児童の相互理解を大切にしながらより良い関係づくりを進めるとともに、いじめ防止にも積極的に取り組んでいきます。

今後も、成果が見られた重点事項は継続し、検討事項については、改善策を講じながら、保護者・地域の皆様とともに、子供たちの「心の教育」を充実させていきたいと思えます。

学校教育目標達成状況②

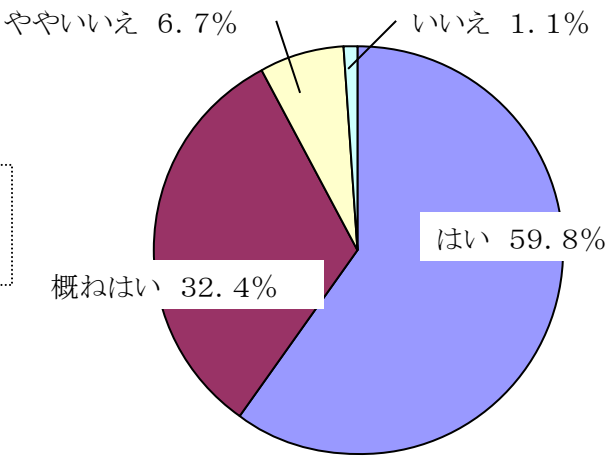
「進んで学ぶ子供」 (確かな学力)

児童アンケート

「授業中は、学習の約束を守って一生懸命勉強していますか。」

肯定率 92.2%

達成

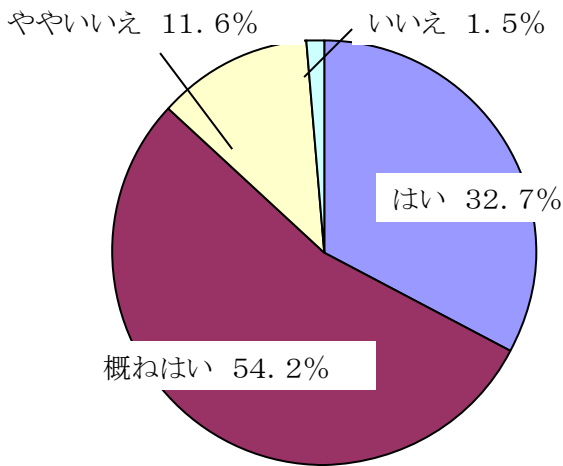


保護者アンケート

「お子さんは、授業に分かりやすさや楽しさを感じていますか。」

肯定率 86.9%

達成



教職員自己評価

「基礎基本の定着に向けた指導を行ったか。」

評価値 3.4

達成

「自ら学ぶ子供」を育成するための学校の取組と、保護者による学校の行動評価

項目	肯定率
1 基礎・基本の定着に向けた指導	93.9%
2 活用したり、調べたりする学習の展開	89.8%
3 指導法や指導体制の工夫	88.2%
4 「読む書く話す聞く」活動の充実	88.0%

【評価結果の考察】

児童アンケートの「授業中は、約束やきまりを守って一生懸命勉強していますか」では、肯定率が92.2%と昨年度よりわずか0.9%下回りましたが、高い肯定率を維持しています。保護者アンケートの「お子さんは、授業にわかりやすさや楽しさを感じていますか」でも、86.9%と昨年度に比べ3%上回り、高い肯定率となっています。保護者による学校の行動評価についても、4つの項目とも昨年度を上回りました。これは、『児童が身に付けた基礎・基本を基に、活用・探究へと学習をつなげていく』という本校の授業づくりの取組が保護者の皆様に少しずつ評価されてきていることの表れと捉えています。

本校では、授業の充実を第一と捉え、御家庭の御理解と御協力をいただきながらこれまで学習指導に取り組んできました。これからも「基礎・基本の着実な定着と探究的な学習の展開」を目指し、引き続き御家庭との連携を図りながら、学習指導に努めていきたいと考えております。

【次年度に向けた取組】

保護者アンケートの「お子さんは、家庭学習に自ら取り組んでいますか」という項目については、肯定率が84.9%と、昨年度より3.4%上回りました。本校では、家庭学習の定着を目指し、児童への指導や働き掛けを続けてきましたが、少しずつ成果が見られてきたのではないかと思います。今後も、学習ルールの定着を図り、学年ごとの系統性を意識した効果的な家庭学習の在り方を検討しながら指導に当たっていきます。

教職員自己評価では、基礎基本の定着に向けた取組に関する項目の評価値が目標を上回る結果でした。今後も、少人数指導・一部教科担任制の導入等を通して、「個に応じた指導」の充実に努めるとともに、これまでの生活科・総合的な学習で積み上げてきた成果を踏まえ、『主体的・対話的で深い学び』を追求し、授業改善を続けてまいります。さらに新学習指導要領の施行に向け、外国語活動の充実を目指すとともに、新たに導入される情報教育への対応にも着実に取り組んでいきます。

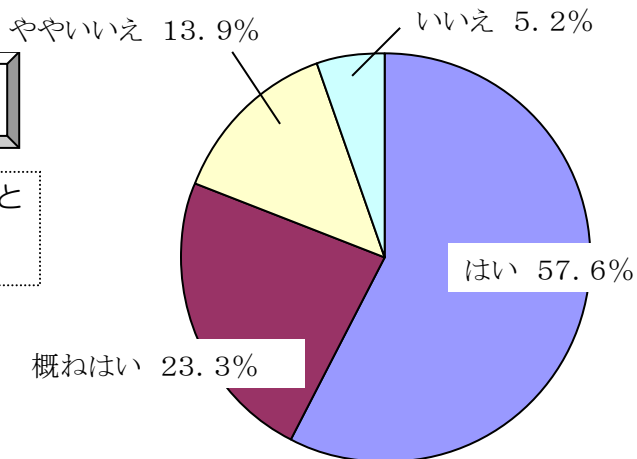
「たくましい子供」 (健全な心と体)

児童アンケート

「進んで運動や外遊びをすることができましたか。」

肯定率 **80.9%**

達成

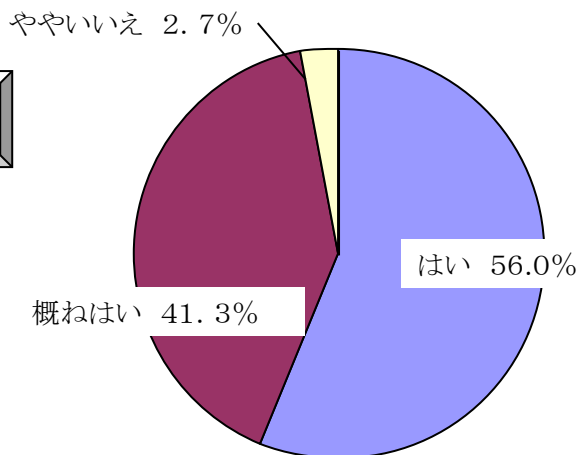


保護者アンケート

「お子さんの、心や体の健全な成長を実感することがありましたか。」

肯定率 **97.3%**

達成



教職員自己評価

「心の健康づくりのための取組を行っているか。」

評価値 **3.4**

達成

「たくましい子供」を育成するための学校の取組と、保護者による学校の行動評価

	項目	肯定率
1	体力向上のための継続的な取組	89.4%
2	基本的な生活習慣の形成・食育の推進	93.6%
3	心と体をときほぐす取組	92.5%
4	達成感を味わわせる行事の展開	93.7%

【評価結果の考察】

目指す児童像に掲げた「たくましい子供」には、「体力」だけでなく「自分自身の健康維持増進」「心の健康」「基本的生活習慣の形成」などの様々な要素が含まれます。中でも「基本的生活習慣の形成」は、生活や学習の基盤となる大切な要素だと考えております。

保護者アンケートでは、「お子さんの心や体の健全な成長を実感することがありますか」という問いに対する肯定率が97.3%と、昨年度よりわずかに下がったものの、引き続き高い評価をいただきました。ただ、年度始めに行った仙台市の体力・運動能力テストの結果では、仙台市の平均に満たない項目がほとんどであることが分かり、実効性のある体力向上への取組が本校の重要課題であることが明らかになりました。

一方で、以前の評価がやや低めだった「達成感を味わわせる行事の展開」については、今年度も93.7%と、高い評価をいただきました。体育大会や学習発表会だけではなく、各学年で実施している様々な行事や取組について、一定の評価をいただいたものと認識しています。新学習指導要領の施行に伴い授業時数の更なる増加が見込まれてはいますが、成就感や達成感を味わい、学校生活をより充実させられる学校行事の実施が、保護者の皆様から期待されているものと受け止めています。

【次年度に向けた取組】

「体力向上のための継続的な取組」については、肯定率が89.4%と昨年度より1.6%上回りましたが、体力・運動能力テストの結果から、体力向上への取組の課題が浮き彫りになりました。次年度は、『健全な身体の育成』に向け、学校独自の「体力向上プラン」を基に、運動量の確保を前提として体育学習を推進していくとともに、業間時間等を活用した「元気アップマラソン」の拡充や「元気アップ大なわとび」などへの取組等、様々な面から児童の運動環境の改善に積極的に取り組んでいきます。また、本校の特色ある学校給食を活かした食育の充実にも今後取り組んでいきます。「達成感を味わわせる行事の展開」については、今後も子供たちの参加意識を高め、より主体的に関わることができるように活動内容を検討していきます。

『健全な心の育成』に向けては、年4回のいじめを含む学校生活に関するアンケートの実施とその後の聞き取りや保護者との連携、年2回の「教師との対話期間」の実施等によって、児童の心の声にしっかり寄り添うとともに、児童相互の望ましい関わりを促すための「言語環境の整備」を継続していきます。また、保護者の悩みや児童の健康、発達等の課題に応じた教育相談体制の整備にも、引き続き取り組んでいきます。

協働型学校評価の重点目標達成状況

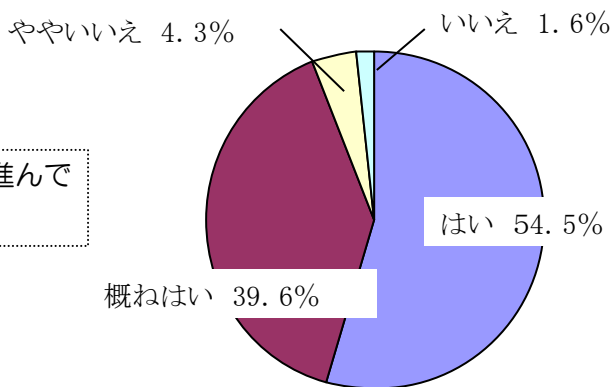
「相手の気持ちを考えて、話したり、話を聞いたりすることができる」

児童アンケート

「友達や先生に、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきましたか。」

「はい」占有率 **54.5%**

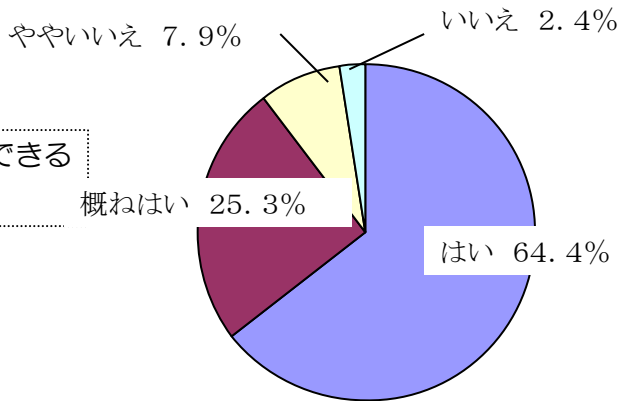
未達成



「家族に、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきましたか。」

「はい」占有率 **64.4%**

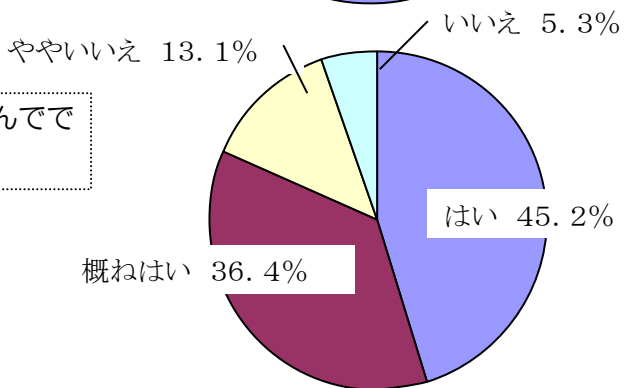
達成



「地域の人に、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきましたか。」

「はい」占有率 **45.2%**

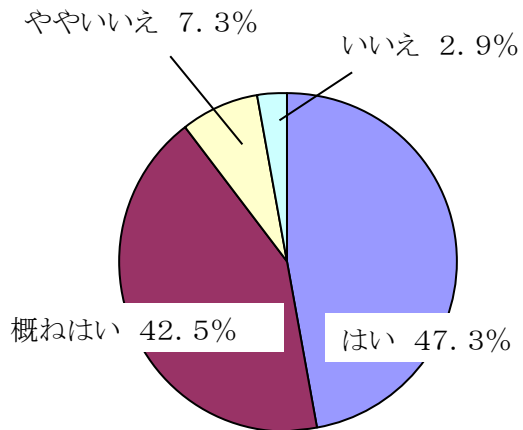
未達成



「相手の気持ちを考えて話すことができましたか。」

「はい」占有率 **47.3%**

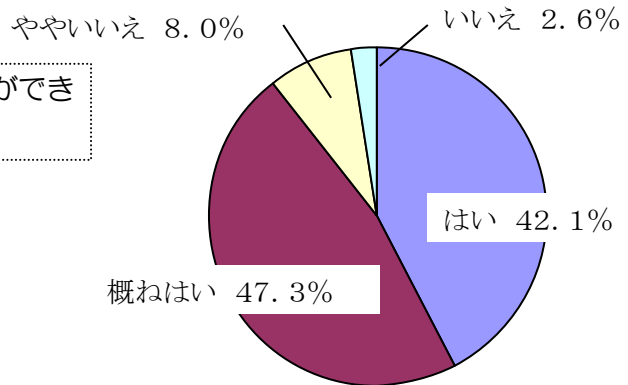
未達成



「相手の気持ちを考えて話を聞くことができましたか。」

「はい」占有率 42.1%

未達成

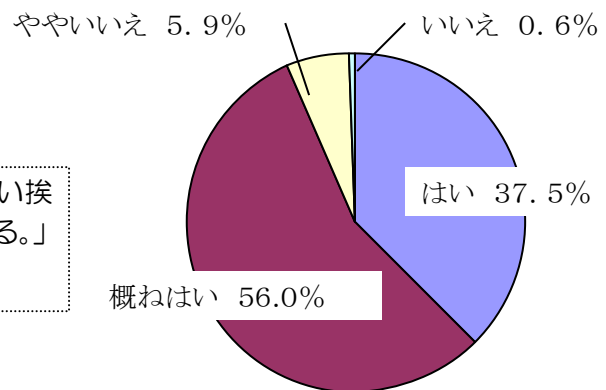


保護者アンケート

「子供たちは、友達に対して気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

肯定率 93.5%

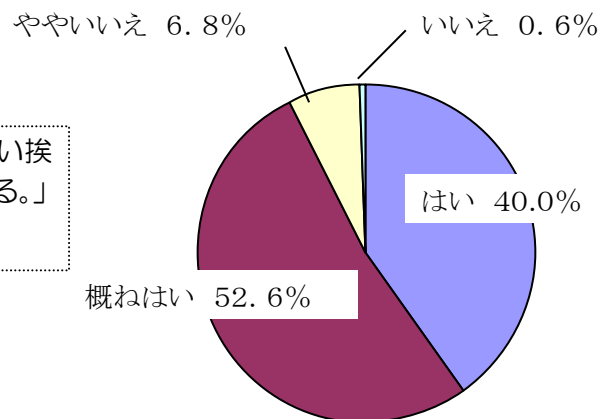
達成



「子供たちは、家族に対して気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

肯定率 92.6%

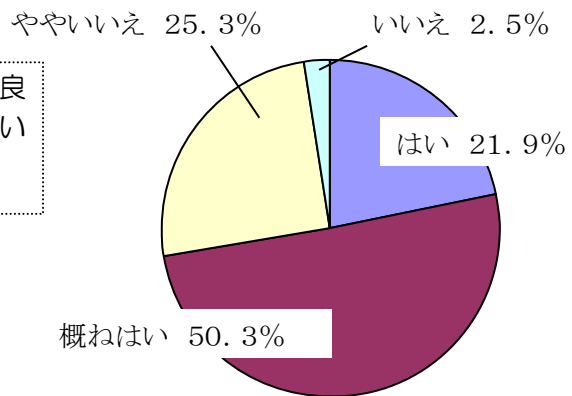
達成



「子供たちは、地域の人に対して気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

肯定率 72.2%

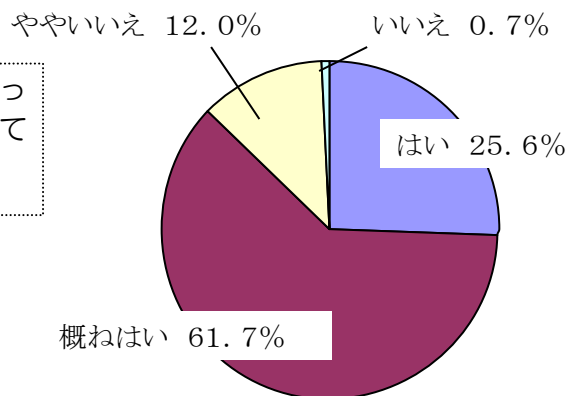
未達成



「子供たちは、相手の気持ちを考えて、あたたか言葉で話すことができるようになってきている。」

肯定率 87.3%

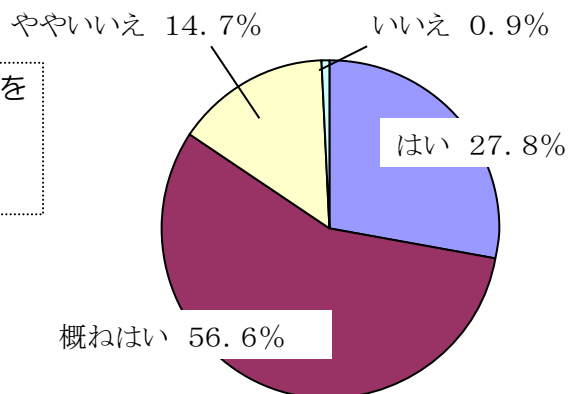
達成



「子供たちは、相手の気持ちを考えて、目を見て話が聞けるようになってきている。」

肯定率 84.4%

達成

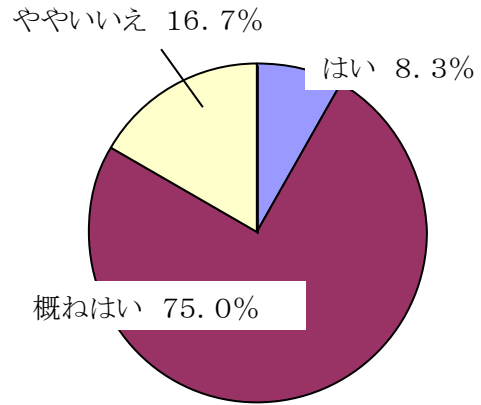


教職員アンケート

「児童は、友達や教職員に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

評価値 2.9

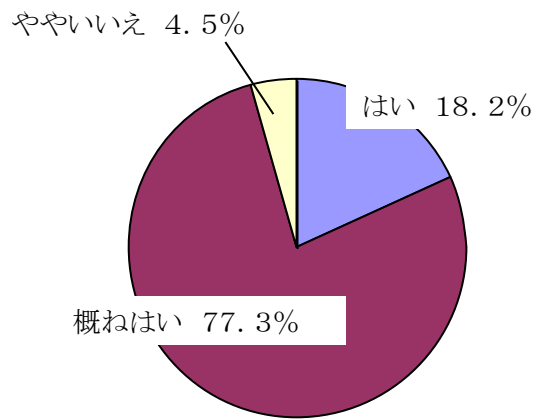
未達成



「児童は、家族に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

評価値 3.1

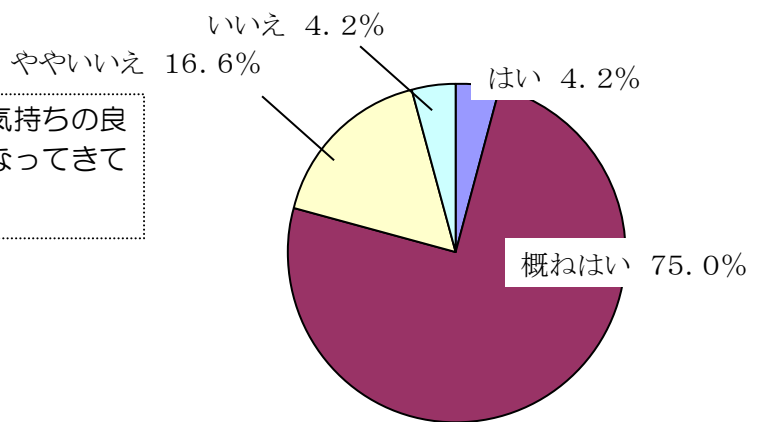
達成



「児童は、地域の人に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

評価値 2.8

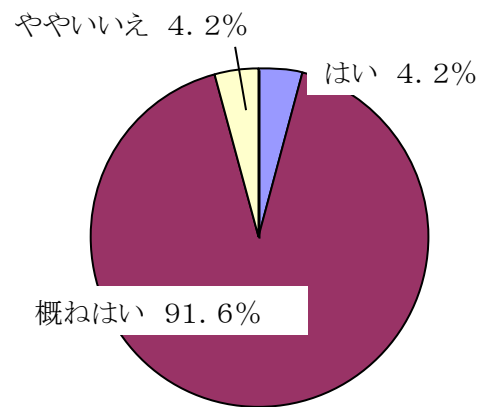
未達成



「児童は、相手の気持ちを考えて、あったか言葉で話すことができるようになってきている。」

評価値 3.0

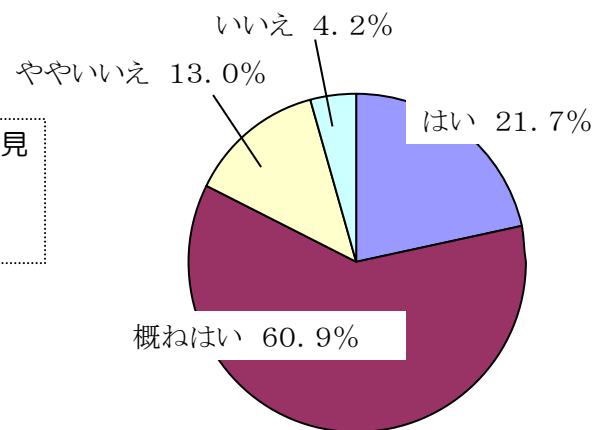
達成



「児童は、相手の気持ちを考えて、目を見て話が聞けるようになってきている。」

評価値 3.0

達成



【評価結果の考察】

「気持ちの良い挨拶が進んでできる」の3つの要素である「友達や先生に」「家族に」「地域の人に」それぞれについての児童の評価結果を見ると、「はい」が55%以上を超えたのは、「家族に」(64.4%)の一つにとどまり、「友達や先生に」(54.5%)「地域の人に」(45.2%)は、昨年度より数値は上がっているものの達成目標率を下回りました。ただし、「概ねはい」を含む肯定率は、すべて80%を越えており、挨拶に関する意識は高い状態を保っているものと捉えています。

保護者評価は、「友達に」(93.5%)「家族に」(92.6%)についての評価は、肯定率が90%を超えており、概ね満足できる結果となりました。一方「地域の人に」対しては、肯定率が72.2%で、未達成となりました。地域の方への対応をどのように働き掛ければよいか、迷う部分もあったのかと推測されます。この点は今後の課題とし、「地域の方」を、子供たちになじみのない不特定多数の大人ではなく、自分たちの生活を見守ってくれる方、お世話になっている方と捉えさせ、その方々への挨拶がしっかりとできるように今後も働き掛けていくことが必要だと考えています。

今年度から取り入れた「相手の気持ちを考えて(あったか言葉で)話すことができましたか」では、児童の「はい」の占有率は目標には届きませんでした。肯定率は約90%となっています。児童の生活の中にあったか言葉が浸透してきたことの表れだと思います。保護者や教職員についても、高い肯定率を示していることは、取組が評価されていると考えます。「相手の気持ちを考えて、目を見て話を聞くことができましたか」も同様に、児童の「はい」の占有率は目標には届きませんでした。肯定率は約90%となっています。保護者や教職員についても、高い肯定率を示していますが、話すと比べると数値が多少低くなっているため、今後は聞くことへ取組が課題であると言えます。

【次年度に向けた取組】

今年度は本校の協働型学校評価目標を、「相手の気持ちを考えて話したり、話を聞いたりすることができる」に変更し、行動目標を「元気に明るく気持ちの良い挨拶ができる」「相手の気持ちを考えて、あったか言葉で話すことができる」「相手の意図をくみ、目を見て話を聞くことができる」の3つとし、挨拶だけでなく、話し方や話の聞き方の指導を進めてきました。挨拶については、誰に対しても進んでできるように指導を継続していきます。話し方や話の聞き方については、児童にその意義を理解させ、日常的に実践できるよう工夫を重ねながら、指導を進めていきたいと思えます。

児童会活動でも、引き続き挨拶やあったか言葉について考える機会を持たせ、高学年が学校をリードする形で、児童相互の働き掛けを引き出していきます。また、子供たち自身が相手の気持ちや考えを意識して「気持ちの良い挨拶や話し方・聞き方」ができるような働き掛けを継続して行っていきます。